

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

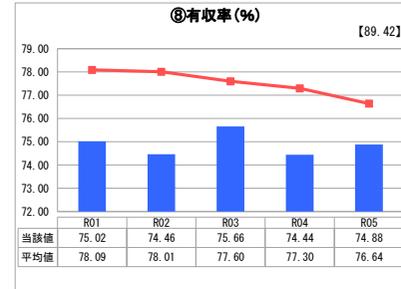
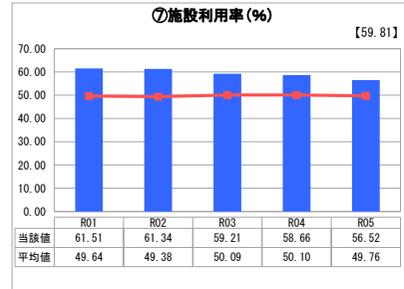
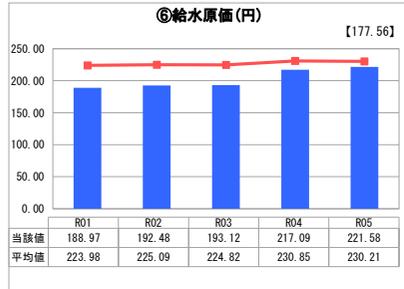
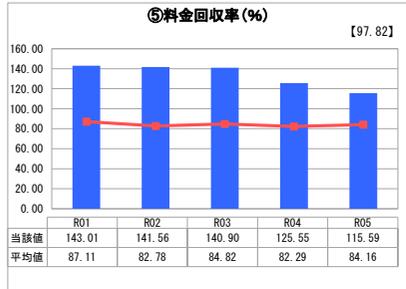
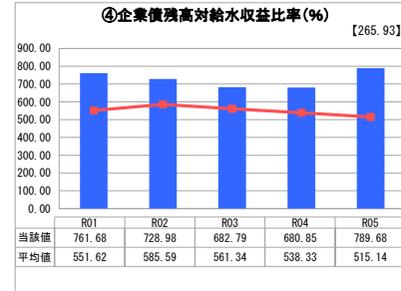
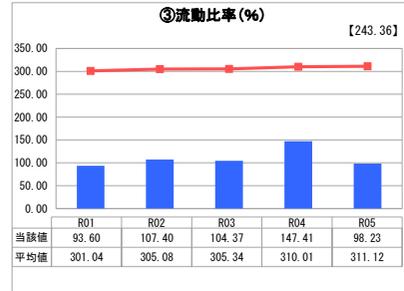
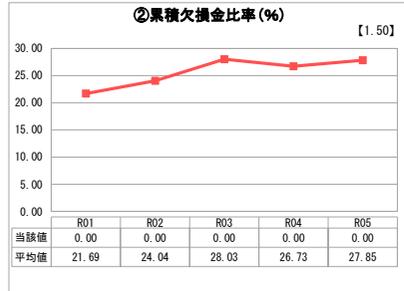
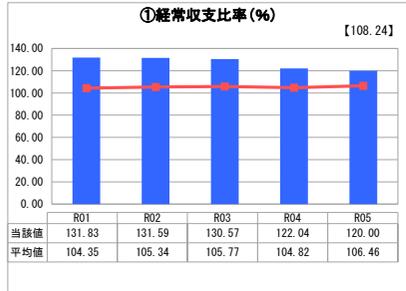
愛媛県 鬼北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	63.46	99.86	5,170	

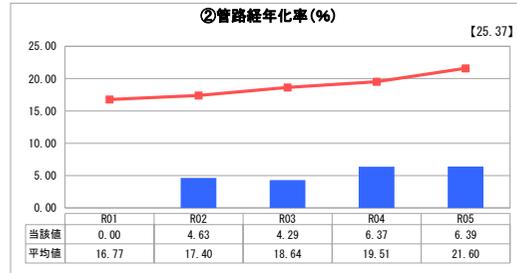
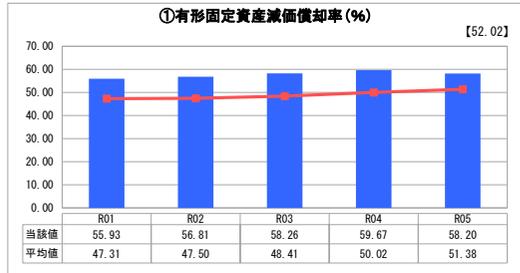
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,318	241.88	38.52
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,962	34.03	263.36

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については100%以上で、全国平均・類似団体平均値を上回っている。一般会計からの繰入金等も基準内繰入で収まっており早急な経営改善の取組は必要ないと考えられる。累積欠損比率は0%であり全国平均・類似団体平均値と比較しても良好な経営状態といえる。流動比率については、全国平均・類似団体平均値を下回っているが少しでも近づけるようにつとめたい。

企業債残高対給水収益比率については、令和4年度より上昇傾向にはあり、全国平均・類似団体平均値を上回っている。これは、大規模な施設改良に伴う企業債の借入によるものであり、今後、バランスを見ながら事業を検討していかねばならない。料金回収率については、100%を超えており基準外の繰入金もなく適正数値といえる。令和4年度から低下傾向にあるが、令和5年度については物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を利用し、基本料金を2か月分減額したことが影響しているものと思われる。

施設利用率については一般的に高い数値であることが望まれており、類似団体平均値を上回っている。

有収率については全国平均・類似団体平均値を下回っている。老朽等からの漏水・事故等による漏水が原因であり、計画的な漏水調査を実施し有収率のアップにつとめたい。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、値が平均値と差があるが、令和6年度に更新を完了する施設もあり、今後減少するところが見込まれる。

管路経年化率は、全国平均・類似団体に比べて老朽化度合は低いといえる。

管路更新率については、全国平均・類似団体と比較して低い数値となっているが基となる管路の総延長の差によるところが大きく、状況を把握した比較等による分析が必要であると思われる。当町では平成元年以降大規模な施設更新を行ったが、一部昭和50年代に改良した施設について法定耐用年数を超えている。更新等の必要性がでてきているので配水池等の施設の耐震化と合わせて計画的な更新を実施していく予定である。

### 全体総括

経営の健全性・効率化について、経常収支比率・累積欠損比率とも全国平均・類似団体平均値よりおおむね良好な数値を表している。

流動比率については、全国平均・類似団体平均より低い数値なので少しでも近づけるようにつとめたい。

料金回収率については全国平均、類似団体平均値よりも良い数値となっている。

給水原価については全国平均と類似団体平均の間に位置している。

有収率については全国平均・類似団体を下回っており、計画的な漏水調査等を実施し、有収率100%に少しでも近づけたい。

管路更新率については改良工事費に制限があり伸びていく見込みは少ないが、耐震化等施設の更新と合わせて計画的に実施していきたい。